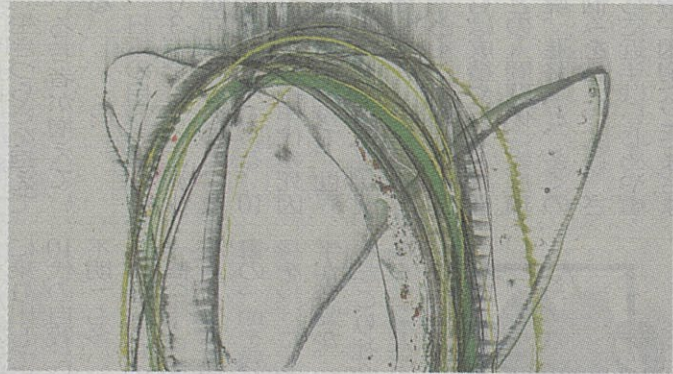


## 文化・芸術

### 「線の形象2024-1」

2024年、岩絵の具、パステル、黒鉛ほか  
紙200・0cm×300・0cm（作家蔵）



### 菊地武彦（1960年）

菊地武彦さんは足利市に生まれ、多摩美術大学大学院油画科で学んだのち、1990年代から絵画の最初の行為でもある「線を引く」テーマに取り組まれてきました。近年の作品「線の形象」では、多数の線が重ねて描かれ、作品の前に立つとき、目は形をつかもうとしますが、やがて視線は線の集積に出現する瞬間の感覚と対峙（たいじ）することになります。

菊地武彦さんのアーティストトークは25日午後2時から展示室で開催します。

### 〈名画の扉〉

企画展「The日本・画一大川美術館のコレクションを中心に」から

迫るような大画面の本作は、新作の一つ。岩絵の具とパステルの線が交差する中には、こ

（大谷）